

第114回 令和7年10月30日（木）

日本語の難しさについて。

「カラスは黒い。」「雪は白い。」それでは土は「茶い」？違います。「茶色い」ですよ。

青い、赤いはあっても黄いではなく黄色いです。色がつくものと付かないものがあるのはなぜでしょう。使用頻度で考えても黄色などは多いと思います。

「四角い」はOKだけど「三角い」や「五角い」はない。これもどうして四角だけなのでしょう。

「汚い」の否定は汚くない。「まずい」の否定形はまずくない。「上手い」の否定形はうまくない。でも「下手い」とは言わないし「下手くない」とは言いません。

「おはようございます。」と丁寧にあいさつしますが「こんにちはございます」や「さようならございます」とは言いません。また細かく言えば「ご苦労様」や「了解です」は上司や目上の人には言わないというエチケットもあったりします。

お土産をもらって「こんな気を遣っていただかなくても結構ですよ、これはいただけません」と言われて「そうですか」と引っ込めることはあまりないですよ。2回くらい繰り返してから「そうですか、それでは遠慮なくいただきます」となるでしょう。

いずれも私たちには当たり前でも海外の方には非常に理解しづらい文化です。

私は大学時代第2外国語でフランス語を専攻しましたが、名詞に男性形や女性形があってとても苦労しました。それでも海外の方にとって日本語はそれをはるかに超える難解さだと思います。

現在「やさしい日本語」の使用が増えてきているそうです。それは悪くない施策であると思いますが、一方で日本人として脈々と受け継いできた日本語文化は守っていくべきだと思います。

そのためにも何となく使うのではなく、なぜこうなのか、私たちが理解したうえで正しい日本語を使うことが大切だと考えています。

最近新聞や本が読まれなくなって（もっとも本のことはもだいぶ怪しいですが）日本語が乱れてきたように感じます。若い方には旧き良き日本文化に触れる機会を増やしてほしいと思っています。